

私たちの研究についての、一般の方向けのご説明

甲状腺の病気に限らず、病気になぜなるのか（**発症要因・疾患感受性**）、あるいは今後どうなるのか（**予後**）は、医学における重要なテーマであり、その病気に罹った患者さんにとっても関心が高いと思います。

私たちは、バセドウ病や橋本病といった自己免疫性甲状腺疾患という病気を対象に、発症要因と予後を決める要因の研究を行っています。

「バセドウ病になぜなるのか」、「バセドウ病になって薬を飲んでいるがやめることができるのか」、「橋本病といわれたが治療しないままでいられるのか」など、実際の診療でも患者さんによく訊かれる疑問に対し、経験だけではなく、検査結果をもとにしてこたえることができるようにしたいと考えています。

血液中のさまざまな細胞や物質を解析することでも役立つ情報が得られるのですが、生まれつきの体質が病気の発症や予後に関係している可能性も高く、生まれつきの体質を表す遺伝子の配列情報の違いを利用できないかと考えています。

多くの患者さんにご協力いただき、遺伝子や血液成分の解析を行って、バセドウ病に罹った人に共通するもの、バセドウ病に罹って薬をやめられる患者さんに共通するもの、橋本病で治療が必要となる患者さんに共通するもの、など、さまざまな情報を集め、将来の新しい検査として応用できるように解析しております。

自己免疫性甲状腺疾患でわかったことは、他の自己免疫疾患（関節リウマチ、糖尿病、多発性硬化症など）でも応用できる可能性が高く、汎用性のある検査を確立できればと考えています。

現在は、高い確実性をもって予後を予測できる方法には至っておりませんが、多くの有益なデータを得ています。実用化できる検査になるようにさらに研究を進めていきたいと考えています。

2018年4月 記